



「新しい学校生活」

副校長 安島 晋

感染症感染の第三波が心配される毎日ですが、皆様の感染症予防対策へのご理解とご協力により学校では3学年の合同体育大会が実施され、1、2学年の合同体育大会を12月に計画するなど、少しずつ生徒の学校生活が戻ってきています。

そろそろ冬を迎えようという季節になり（今週は季節外れの暖かい日が続いていますが）、恒例の今年のベスト10が話題に上がる時期ともなりました。今年の流行語、漢字、ヒット商品等。合わせて2021年の予想も取り上げられていますが、全てコロナ禍が前提のようです。

さて「今年の学校では?」「来年は?」。

昨年末、今年度は新しい学びに向けての大切な準備期間の一年として年間の計画を立てまた、杉並区の研究推進校として「確かな学力を身につけるための授業づくり」という主題で行った2年間の研究の発表会をこの11月13日に計画していました。ところが3ヶ月の臨時休業をはさんで2月から7月の6ヶ月は、学校再開は？入学式は？授業は？部活の大会は？臨時休業で遅れた学習をどう確保するか？時差登校の方法は？感染症感染防止対策に配慮した学校生活は？給食は？これからの行事は？などなど、感染症対策で先の見えない毎日となっていました。

こんな年を表すというより、これからのために残すとすれば、色々な意味での「新しい学校生活」ではないでしょうか。今年は学校でなくてはできないこと、学べないことを改めて考える機会となったことは確かです。これまでの学校を見直し、これからの「新しい学校生活」をより良く捉え創っていくことは「みんなが苦労した今年」を無駄にしないことだと思います。

学校での話題をもう一つ上げるとすれば、「オンライン」。臨時休業中から「オンライン授業」も大

変注目されました。社会生活ではICTとの関わりが数年分以上急速に進み、学校教育に関してもICTの活用が一気に進もうとしています。このICTの利用と関わりについては、我々教員、保護者や生徒の皆さんも「新しい学校生活」の一つとして正しく理解し、活用する方法を学んでいくことは必須でしょう。

「オンライン授業」と聞けば皆様はどのような授業を想像しますか。学校でのICTの活用方法の一つが「オンライン授業」です。「オンライン授業」を一言で言えばインターネット回線を利用して行う授業のことですが、だからと言ってインターネットとPCを利用すれば普段と同じような授業ができるのでしょうか。学校で行っている通常の授業と同じように行うにはまだまだ無理があります。「オンライン授業」と言われる授業にも、オンライン型、リアルタイム型という大きく2種類があり、それぞれに利点も欠点もあります。この利点をうまく使うことができて「オンライン授業」は良いものとなり、今後、学び方の方法の大きな一つであることは確かですが、ICTの活用＝「オンライン授業」でも、休校＝「オンライン授業」でもありません。今後も機器やアプリケーションの進歩、生活環境の変化により益々急速に使用環境が変わっていくなかで学校は「学校でなくてはできないこと、学べないこと」を前提とした「新しい学校生活」においてICTの活用を進めていくことは重要な課題です。ご家庭でも様々な学習の機会にICTを利用する必要ですので、ご協力をお願いします。

こんなICTの利用が進む新しい社会生活や学校で大切なのは、「使用する人に、確かな情報モラルと情報セキュリティについての知識があって成り立つ」ということをしっかりと理解することです。

新しい学校生活でも、いつもの学校が戻ってきました

生徒会 総会と挨拶運動

10月21日(水)

生徒総会は、Teams を使って教室をつないだオンライン会議方式で開催されました。初めての試みに、生徒会役員と各委員長さんは前日のリハーサルから真剣に取り組み、当日はスムーズに進行されていました。



10月26日から

生徒会役員の呼びかけにより、あいさつ週間を実施しました。今回は昨年つくった東田Tシャツを着ての呼びかけです。



理科出前教室 3学年 11月12日

感染症対策に配慮してクラス半分ごとに中に入り、半分は外で学習でした。この日は急に震えるような寒さで、冬空の星座鑑賞のようでした。



11月13日 屋上から

建物は杉二小です。
風があると富士山
がもっとはっきり
見えたのですが、
少し残念です。



3学年合同体育大会

平日開催にもかかわらず多くの保護者の方のご参観ありがとうございました。都合により参観できなかった保護者の皆様には申しわけありませんでした。

コロナ禍で行事がほとんどなくなり、進路に向けて淡々と授業を受ける学校生活の3年生。久しぶりのミニ行事。運動不足で走るだけでもケガの心配にひやひやしながらの実施でしたが、当日は真剣な中にも笑いもありで、クラスや学年のまとまりを感じることのできた貴重な時間となりました。

